

ジャディアンス[®]を 服用される患者さんへ

ジャディアンス[®]は

2型
糖尿病

慢性
心不全

慢性
腎臓病

のいずれかの治療のために
処方されています。



1日1回服用してください。

- 毎日、朝食前または朝食後に、水またはぬるま湯で服用してください。



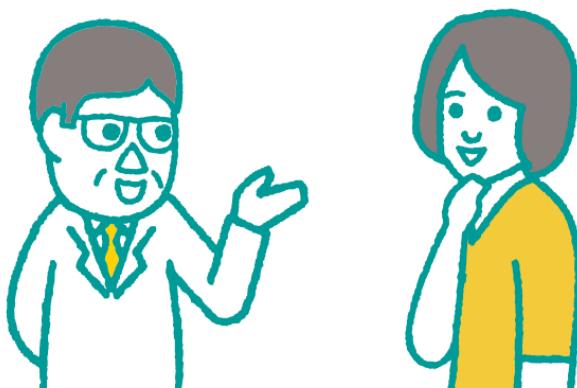
飲み忘れた場合には2回分(2日分)を一度に飲まないでください。

- 決められた時間に飲み忘れたら、忘れた分は飲まずに、翌日の朝に1回分を飲んでください。
- 誤って多く服用したときは、低血糖^{※1}に注意し、医師または薬剤師に相談してください。

※1 低血糖については、7ページ「低血糖の症状」をご参照ください。

医師の指示なしに、服用を中止しないでください^{※2}。

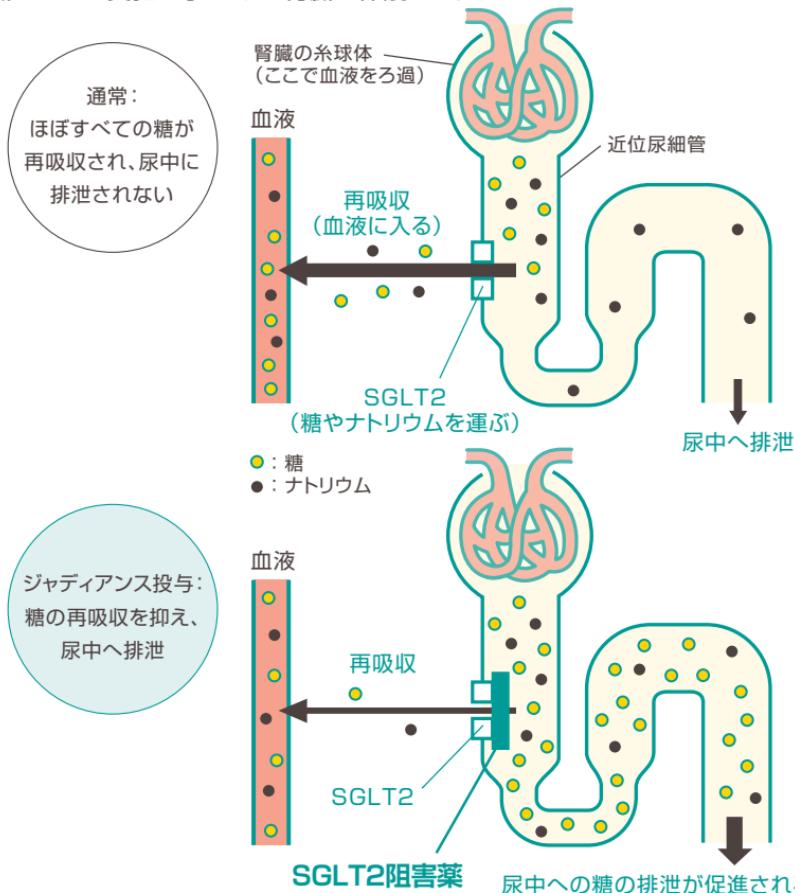
※2 糖尿病の治療をしている患者さんで、インスリン注射をされている方はご自身の判断で注射をやめたり回数を減らしたりしないでください。



ジャディアンス®のはたらき

ジャディアンス(SGLT2阻害薬)は、腎臓に作用して余分な糖と一部のナトリウムを尿と一緒に排泄して、様々な作用をもたらします。

ジャディアンス(SGLT2阻害薬)は、2型糖尿病のある方では血糖値を低下させます。慢性心不全の方では、体の過剰な水分を調整し、また、心臓から全身に血液を送り出しやすくすることで心不全を改善します。慢性腎臓病の方では腎臓にかかる負担を小さくし、腎臓を保護します。



Gerich JE.; *Diabetic Med.* 2010; 27(2): 136-42..
Cherney DZ, et al.: *Circulation* 2014; 129: 587-97.(本試験はペーリンガーアンドヘルム社の支援により行われました。
著者にペーリンガーアンドヘルム社の社員が含まれます。)を参考に作図

監修：川崎医科大学 高齢者医療センター 病院長 柏原直樹 先生

一過性にeGFRの低下および血清クレアチニンの上昇がみられることがあります。

ジャディアンスを飲み始めると、一過性に腎臓の働き(腎機能)のめやすであるeGFR*が低下したり、血清クレアチニンが上昇したりすることがあります。これは、一過性の腎臓の働きの変化であり、慢性腎臓病が進行したという意味ではありません。

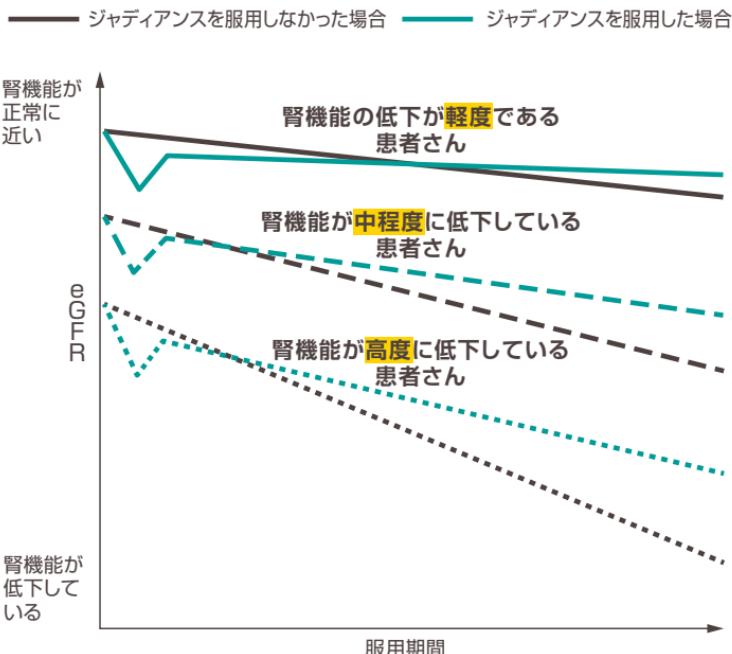
大切なことは将来的に腎機能が低下するのを抑えることです。そのため、定期的な腎機能検査を行い、eGFRの経過を観察することが重要です。

*eGFR(推算糸球体ろ過量)

腎臓の糸球体でろ過される尿のもと(原尿)の量の目安です。

数字が小さいほど腎臓の働きが低下しているという意味になります。

【eGFRの経過のイメージ図(ジャディアンス服用開始時の腎機能別)】



監修：川崎医科大学 高齢者医療センター 病院長 柏原直樹 先生

ジャディアンス®の服用中*は下記の症状に注意し、

脱水の症状

喉が渴く

体のだるさ

めまい

尿量の減少

服用初期はお薬の作用によりトイレの回数や尿の量が増えることがあります。脱水症状を起こすことがあります。

血糖値が高いほど、糖が尿の中に多く出て^{※3}尿の量が増えるため、糖尿病の治療をしている患者さんは、特に注意してください。

※3 ジャディアンスは、余分な糖と一部のナトリウムを尿と一緒に体から出すことで体の中の余分な水分を減らし、心臓の負担を減らすお薬です。

脱水になっても症状を自覚しにくいこともあるので、日ごろから水分補給を心がけましょう。

気温が高い時期や下痢・嘔吐があるとき、血糖管理が極めて難しい方、ご高齢の方、利尿剤を飲まれている方、腎機能が低下している方は特に注意が必要です。

水分補給のポイントは、ジャディアンスを服用している目的によって異なります(6ページ参照)。

2型糖尿病の治療とあわせて慢性心不全・慢性腎臓病の治療を行っている場合は、医師にご相談ください。



*本剤服用中は一部の臨床検査の項目(尿糖、血清1,5-AG)に影響が出ることがあります。本剤を服用していることを医師に伝えてください。

症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

2型糖尿病

【水分補給のポイント】

服用初期▶喉が渴く前に水分を摂る

SGLT2阻害薬服用初期は尿量増加がみられるので、しっかり水分を摂ってください。



SGLT2阻害薬服用により、服用1日目にはジャディアンス10mg群ではプラセボ群に比べて、約500mLの尿量増加がみられています¹⁾。

日常生活の注意

- こまめに水分を摂る 例:朝(起床後)、トイレの後、入浴前後
- 気温が高い時期には、喉が渴いていなくても早めの水分補給を心がける

服用継続期▶喉が渴いたら水分を摂る

服用初期にみられた尿量増加は、持続的にはみられません。

服用時の尿量は飲水量が規定因子となり²⁾、飲水量や回数を過度に増やすことが尿量の増加や頻尿に繋がります。

ご高齢の方は服用に関わらず、普段からこまめに水分を摂る

体液量減少の有害事象は、服用に関わらず高齢になるにつれ発現率が高くなります。

1) Yasui A, et al.: *Diabetes Ther.* 2018; 9: 863-71.

2) Tanaka H, et al.: *Adv Ther.* 2017; 34: 436-51.(他のSGLT2阻害薬での検討に基づく)

監修：川崎医科大学総合医療センター 特任部長

川崎医科大学 名誉教授

加来 浩平 先生

慢性心不全

【水分補給のポイント】

水分を摂りすぎると、慢性心不全が悪化することがあります。水分を摂る量は、医師の指示に従ってください。

慢性腎臓病

【水分補給のポイント】

水分バランスを保つ機能が低下していることがあります。水分を摂る量は、医師の指示に従ってください。

低血糖の症状

特に糖尿病の治療をしている患者さんでは、低血糖により、以下のような症状があらわれる場合があります。

空腹感

動悸

ふらつき

頭痛

脱力感

めまい

冷や汗

症状があらわれたら、まずはブドウ糖を、ない場合は砂糖や糖質を含むジュースなどを摂ってください^{※4}。

※4 糖尿病の治療をしている患者さんで、 α -グルコシダーゼ阻害薬との併用時には、砂糖ではなくブドウ糖を摂るようにしてください。

症状の回復がみられない場合にはすぐに医師に相談してください。
お薬の飲み合わせで低血糖が起りやすくなることがあります。
他のお薬を飲まれている場合は、医師・薬剤師に伝えてください。



ケトアシドーシスの症状

悪心・嘔吐

食欲減退

腹痛

異常に喉が渴く

体のだるさ

呼吸困難

意識障害

血糖値に関わらず、このような症状があらわれた場合、ただちに医療機関を受診してください。以下にあてはまる方は、注意が必要です。

- ・ 医師からインスリン分泌能が低下しているといわれている方
- ・ ご高齢の方
- ・ 利尿剤を飲まれている方
- ・ 腎機能が低下している方
- ・ 糖尿病の治療をしている患者さんで、最近インスリンの減量や中止を行った方
- ・ 発熱や下痢などで食事が摂れない方
- ・ 感染症がある方
- ・ 脱水を起こしやすい方



米、パン、めん類などの糖質の過度な制限は避けるようにしましょう。ジャディアンスの服用を中止した後も、症状が続くことがあります。ジャディアンスを服用していたことを医師に伝えてください。

発熱や下痢、嘔吐などがあるとき、 食事が摂れないときは…

発熱や下痢、嘔吐などがあるときや食欲不振で食事が十分に摂れないとき^{※5}は血糖値が不安定になり、脱水になることがあります。そのときは、薬を減らしたり、一時的に止めたりする必要がある場合があります。食事や水分が摂れない場合が続く際は、ジャディアンスの服用を中止し、医師に相談しましょう。また、食事が摂れない手術のときも、手術前に薬を一時的に止める必要がある場合があります。薬を飲んでいることを、医師に相談しましょう。

※5 このような状態は、シックデイとよばれます。

尿路感染

性器感染

トイレが近い

陰部のかゆみ

排尿時の痛み

女性の
場合

おりものの色や
においの変化

残尿感

尿路感染および性器感染から重大な感染症(腎孟腎炎、フルニエ壊疽、敗血症など)に至ることがありますので、以下のことに日ごろから気をつけましょう。

- ・トイレを我慢しないように
- ・陰部を清潔に
- ・十分な水分補給

異常に気づいたときは、医師にご相談ください。

特に、局所の熱感や疼痛、皮膚に黒色変化がみられる場合はただちに受診してください。



皮膚の症状

皮膚の赤み

かゆみ

ニキビのような発疹

皮膚の症状に気づいたときは、すぐに医師にご相談ください。



日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社